

④ 第4委員会

「自然に親しみ、生き物を大事にするまちづくり」



それでは、第4委員会の意見を発表します。

第4委員会のテーマは、「自然に親しみ、生き物を大事にするまちづくり」です。

このテーマについて考えるため、私たちは7月23日に東山動植物園の施設見学を行いました。

そこで、私たちはアジアゾウのふるさとスリランカに近い環境をつくって、象が暮らしやすいような工夫がされていることを知ったり、暗いところで生活しているコアラなど、動植物が自然の姿で過ごしている様子を見学したりしました。そして、象舎にはスリランカの川をイメージした水遊び場や木があったり、餌を探して食べるという野生の暮らしに近づけるために餌場がいろいろなところにあることを知ったり、コアラが食べる9種類のユーカリはもともとオーストラリアでしか栽培できませんでしたが、今では日本でも栽培していることがわかりました。動植物が自然の姿でいられるようにするために働く皆さんの東山動植物園再生プランを推進する努力に感動しました。

その後、私たちは施設見学をして分かったことや、思ったこと、感じたことをもとに、名古屋を「自然に親しみ、生き物を大事にするまち」にするにはどうすればいいのかを考えました。

それでは、私たちが考えたことを順番に発表します。

○子ども議員

僕は、動物たちの大切さを知ってもらうための勉強会やイベントを開き、名古屋市民の皆さんに動物のすごさ、迫力、楽しさなどを知ってもらうことが大事だと思います。あと、いろんな植物に親しみ、大事にすることも大切だと思います。虫を食べる花、日本には生息していない植物、熱帯植物など、一風変わった植物を見してみる、知ることも大切だと思います。

そうして、市民一人一人の意識で名古屋は「自然に親しみ、生き物を大事にするまち」になるのだと思います。

○子ども議員

私は、東山動植物園に行き、動植物の健康を一番に考えている飼育員さんのおかげでいつでも楽しく動植物を見ることができると思いました。また、生き生きとしている動植物を見ると、私たちは元気をもらえます。自然に親しみ、生き物を大事にするまちづくりにするためには、生き物の生命力を感じ、命のとうとさを知ることが大切だと思いました。

そして、家庭において動植物を飼ったときには、最後まで責任を持って育てることも重要だと感じました。それにより、動植物の生態系も守られて、よいまちづくりができると思います。

○子ども議員

僕は東山動植物園を見学して、飼育員さんたちが動物たちの自然の様子をイメージしたり、暮らしやすい環境をつくったり、また絶滅のおそれがある動物の保護などの努力が未来につながっていくと思いました。

また、人々がなぜ何回も東山動植物園を訪れるのかを考えると、日本で数少ない動植物を展示したり、日本中の動植物園ではないものがたくさんあるからだと考えました。数少ない動植物を守り続ける努力を続けてほしいです。

○子ども議員

私が東山動植物園を見学した中で一番印象に残ったことは、動植物が未来へ命をつなぐことを大事にしている飼育員さんたちの姿です。つなぐために、動植物に思いやりの心を持って接しているように感じました。

このような姿から、私も生きているものに思いやりを持って接することが大事なんだと思いました。このような心を持つことから、「自然に親しみ、生き物を大事にするまち」になっていくのだと思います。

○子ども議員

名古屋を「自然に親しみ、生き物を大事にするまち」にするためには、そのことについて学校のクラスなどで話し合ってもらうようにすればいいと思います。

どうしてかというと、自分たちで自然や生き物を大事にする意見を出し合うことによって、そのことについての意識や関心が自然と深まると思ったからです。

○子ども議員

象舎を見学して印象に残ったことは、象舎の環境についての工夫です。動物園では、それぞれの動物のもともと住んでいた環境に近くして、動物が暮らしやすいようにしていたことです。木漏れ日を見せたり、本物そっくりの木のレプリカを植えたりしていたところで、動物園は動物のことを真っ先に思っているということが感じられました。

○子ども議員

「自然に親しみ、生き物を大事にするまち」にするには、自然、植物、生き物の様子や感情を知ることがいいと思います。見学をしてわかったことは、動物や植物に合った建物や温度など、整備してあり、自分たちよりも動物や植物を第一に優先している飼育員さんたちがすごいなと思いました。そこで、新しい疑問を持ちました。今の時期は暑いですね。動物も植物も暑いと思います。今は暑いから、動物や植物のための熱中症対策。

1、例えば鉄のおりが熱くなっている、でも動物は賢いから熱いおりには近づかないと思うけれど、万が一おりに体が当たってしまったらやけどを負ってしまうかもしれないから、熱が出たら冷える仕組みを持つ鉄のおりにしてある。2、動物や植物に水をかけてあげる時間をつくってある。3、食事で一、二回ぐらい氷をあげている。こんな感じで、実は裏でやっているのではないかなと思います。

植物は温室により温度も調節されていると思うし、時間ごとに上から水のシャワーが降ってくるので、植物も気分満足だと思います。動物も植物も、飼育員さんにより、暮らしやすく楽しい日々を過ごしているんだなと思いました。

○子ども議員

私が東山動植物園を見学して考えたことは、なぜ東山動植物園は学校での遠足で使われていたり、何回も訪れる人がいるのかなということです。ここで出た答えは、東山動物園は愛されていて、大切な生き物や自然の命の大切さを学ぶことができるからだということがわかりました。だから、飼育係さんも頑張っています。

しかし、これらは飼育係さんだけではできないと思います。なので、ペットやお花、観葉植物などを育てて、自然に親しみ、生き物を大事にするまちづくりがあればいいと考えました。

○子ども議員

^{わたし}私は、コアラがどうして明るいところより暗いところのほうがユーカリをよく食べるのか、動物園を見学して新たな疑問^{ぎもん}を持ちました。

今回、動植物園を見学したことにより、今まで思っていた動植物も違う面から見ていろいろな疑問^{ぎもん}を持ったり感心したりして、これからの発見^{みちび}を導くと思いました。

^{わたし}私は、その疑問^{ぎもん}を解決^{かいけつ}して未来の動植物の生命に今までにはなかった新しい光^{かがや}を輝かせたいと思いました。これからも感心や同感をふやして、どんどん興味^{きょうみ}を持っていきたいです。

○子ども議員

^{ぼく}僕は、この東山動植物園に行き感じたことは、動植物のことを考えてあげている飼育員^{しいくいん}さんのことです。

なので、僕は木や草を伐採^{ばっさい}し植物や動物が住めなくならないようにしたいです。そのためには、地球温暖化^{おんだん}を進めないようにしたり、自然が豊富^{ほうふ}だったところを都会にしないようにしていきたいと思います。

○子ども議員

^{わたし}私は、名古屋を「自然に親しみ、生き物を大事にするまち」にするには、市民が生き物や自然を知ることが大切だと思います。東山動植物園では、動植物園の人がそれぞれの動植物をよく知り、その動植物に^{てき}適した^{かんきょう}環境をつくっていました。

このように、市民の^{みな}皆さんが生き物や自然を知ることが^{だれ}誰にでもすぐに実行でき、大切にしようと思いやすいので、名古屋を「自然に親しみ、生き物を大事にするまち」にするためにとても大切なことだと思います。

○子ども議員

今回^{しきつ}視察した東山動植物園では、ゾーリアムやアフリカの森エリアづくりなど、^{ぼく}僕たちも楽しむことができ、動物にも^{やさ}優しい、もとの自然に^{かんきょう}近い環境をつくり上げていました。

これと同じように、名古屋のまちでも名古屋^{じょう}城にある樹^{じゅれい}齢600年以上のカヤノキや市の木であるクスノキなど、昔から名古屋に生えていた木をもっとたくさん道路や学校に植えることで、もとの自然に^{かんきょう}近い環境をつくり、さらにそれをみんなに知らせていくことで、自然と人をつなぐまちづくりができると思います。

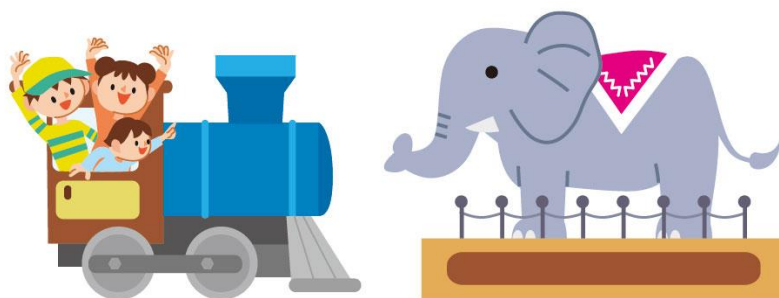
○子ども議員

^{ぼく}僕は、この間の施設見学で東山動植物園に行きました。家が近いため、今までに何度も訪^{おとず}れたことがあります。いつもは動物や植物を見て楽しんでいました。

今回のお話を聞き、動植物園の方々のように僕^{ぼく}たちもいろいろな生き物のことをもっと知る必要があると思いました。身の回りにいる生き物は人間と同じ仲間なのです。その仲間のことをより深く知り、関心を持つことが自然に親しみ、生き物を大事にするまちづくりにつながっていくと思います。

^{わたし}私たち第4委員会は、このようなことが名古屋を「自然に親しみ、生き物を大事にするまち」にするために必要だと考えました。

これで、第4委員会の発表を終わります。



■堀場土木交通委員長の答弁

今、第4委員会の発表がありました。

この委員会は最初に正副委員長さんを選んで、そしてなおかついろんな協議をしてまいりました。その中で、お手伝いいただきました私どもの土木交通委員会の近藤副委員長、そして余語副委員長とともに皆さんの指導に当たってきたわけでありますけども、正直申し上げて皆さん本当にしっかりしているということを私も感じました。



といいますのも、動物園へ行き、その中で母親の象のアヌラ、このアヌラというのは重さが2トン半あるという大きな象であります。背の高さは2メートル30と大変大きな象でありました。その象で、飼育員の皆さんが気を使ってくれて、同じ経験をするならということで餌やりの場をつくってくれました。

皆さん、私も象にはさわったことないんですが、第4委員会の13名の議員さんは象に直接触れることができました。餌を持って、鼻をなでて、そして餌をやってまいりました。その中で感心しましたのは、象もそれを大変喜んで、我々が帰るときには鼻でさよならと、こういう形で鼻を振るんですね。正直、本当に第4委員会の皆さんはいい経験ができたなというふうに私も喜んでおります。

また、今発表があった中で、それぞれの思い、またこれからやっていこうとすることについてしっかりと発表してくれました。皆さんの言う

とおりでありますので、今後、この名古屋市会においても皆さんの意見を十二分に生かして、これから進めてまいりたい、生き物の命の大切さを進めてまいりたいと思いますので、御理解を賜り、この委員会でお手伝いをいただきました武田先生にも心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

皆さんが立派に発表できたこと、心から感謝を申し上げて、お礼の御挨拶にさせていただきます。

